

令和7年度在宅医療講演会アンケート集計結果概要について

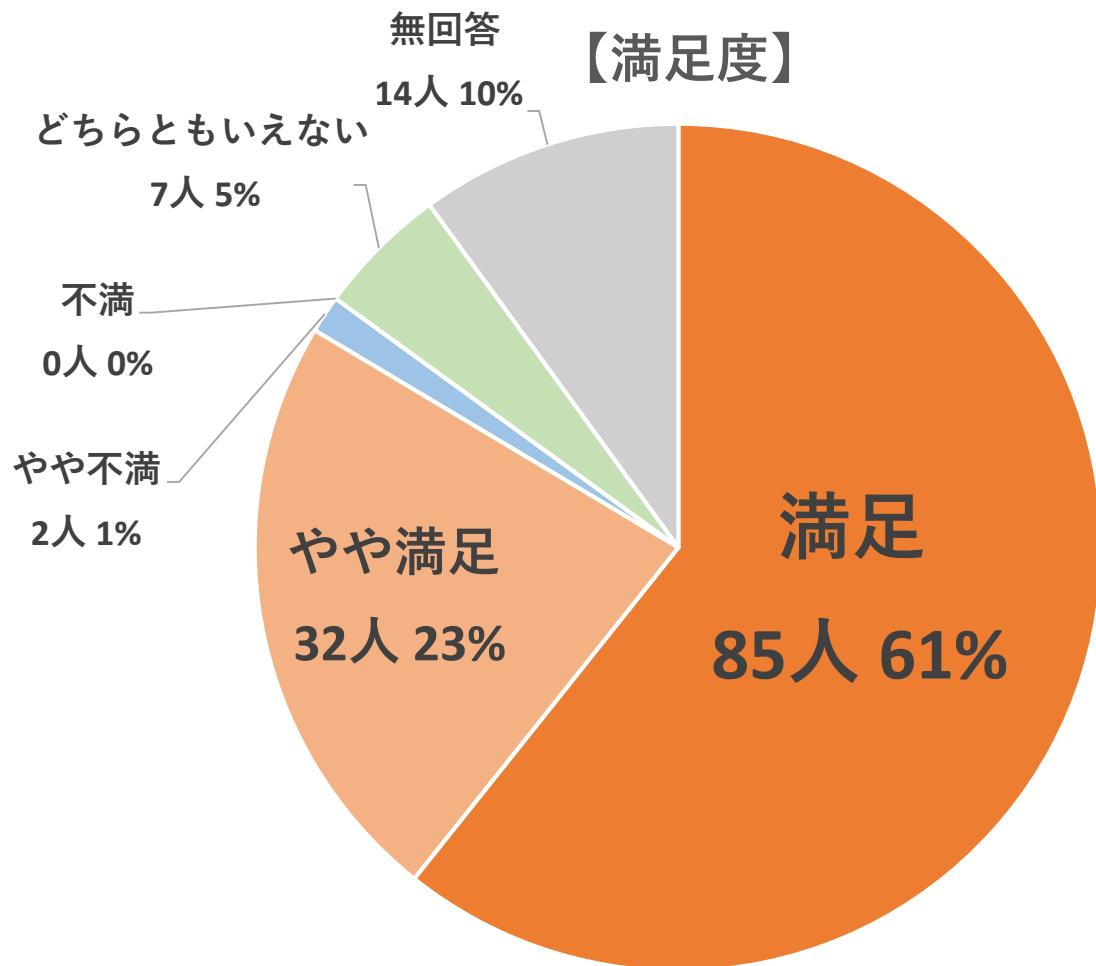
【資料第2号】

開催日時:令和7年9月27日(土)

第1部 テーマ:「在宅緩和ケアとACPの実際」 講師:吉田大介 氏(東京在宅ケアクリニック院長)

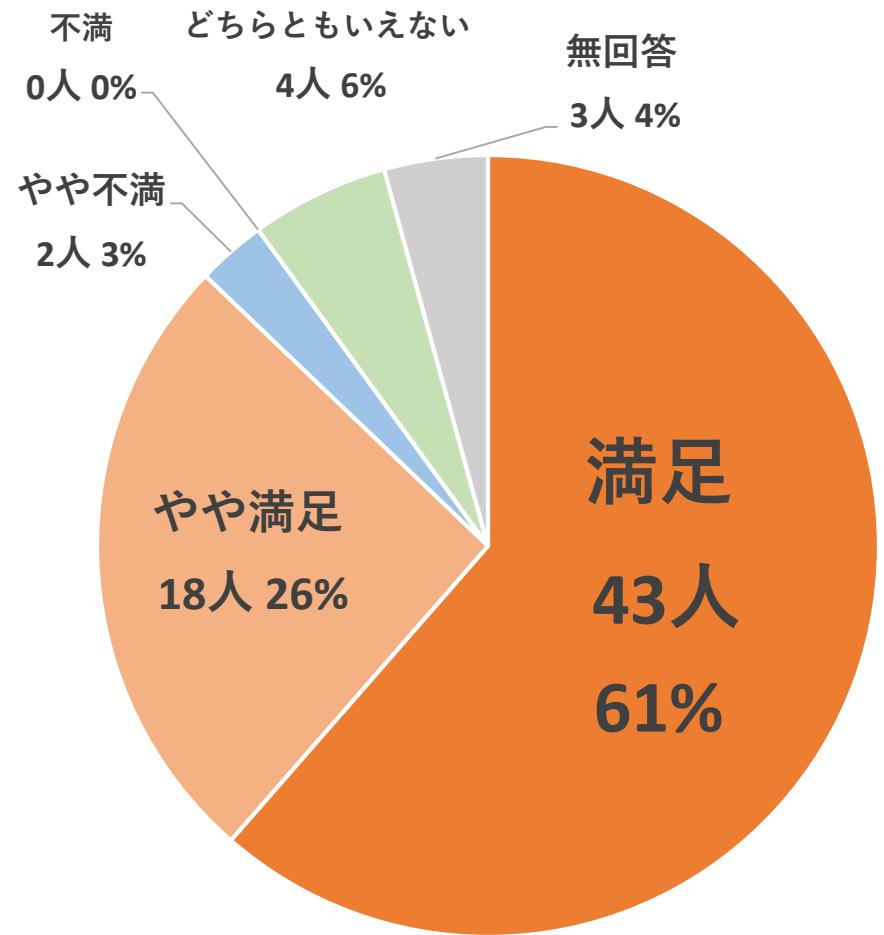
第2部 テーマ:「在宅医療とリハビリテーション」 講師:石垣泰則 氏(コーラルクリニック院長)

参加者数:70人(前年度+2人)

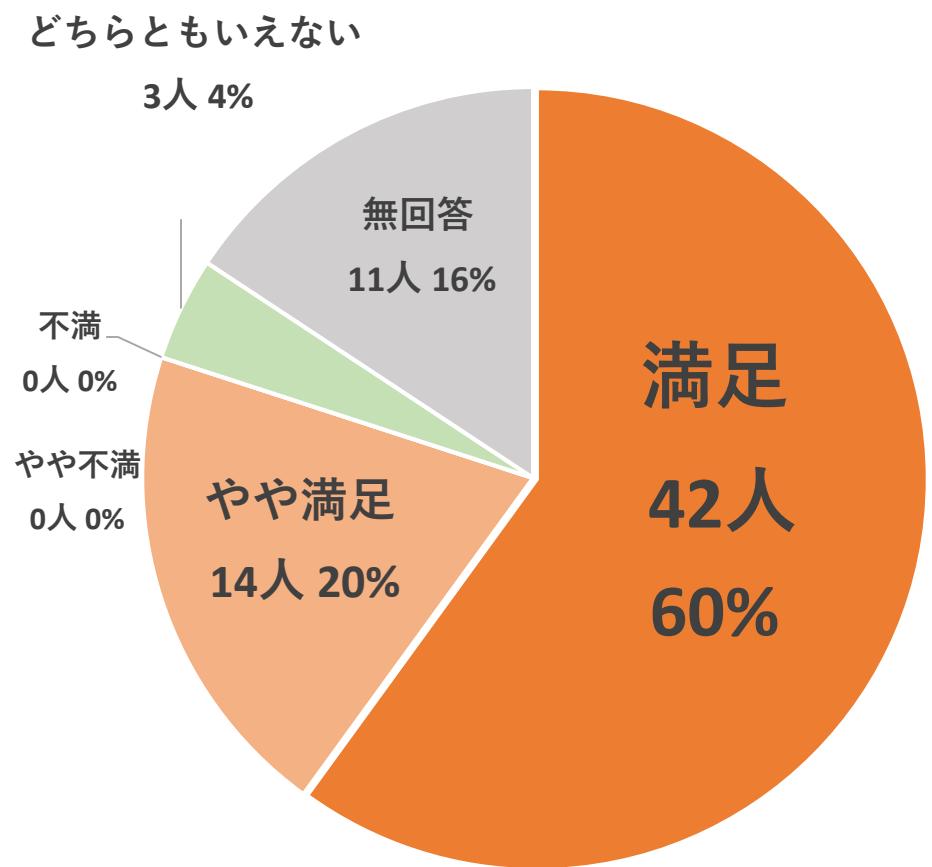


参加者の約85%は
「満足」「やや満足」と回答

【第1部「在宅緩和ケアとACPの実際」満足度】

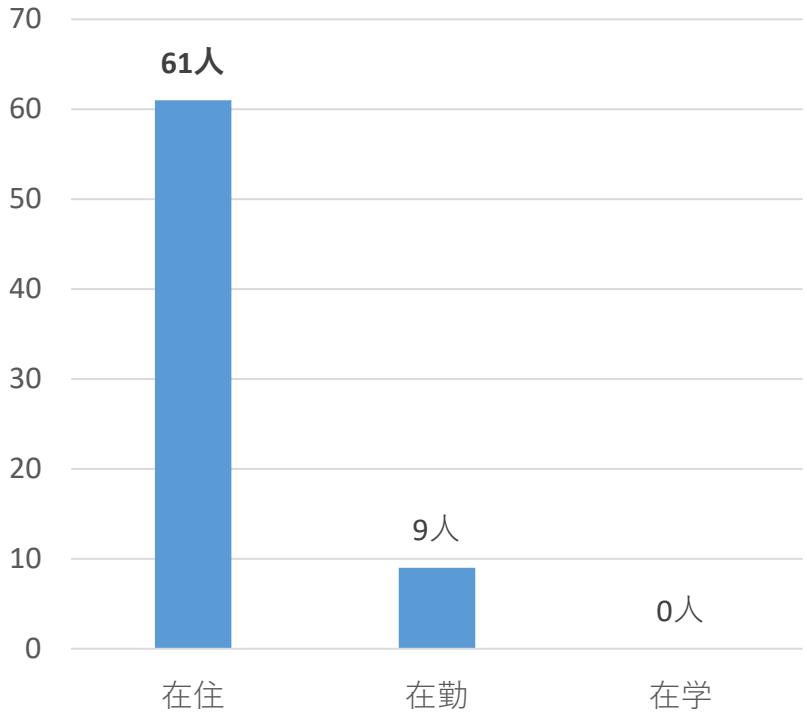


【第2部「在宅医療とりハビリテーション」満足度】



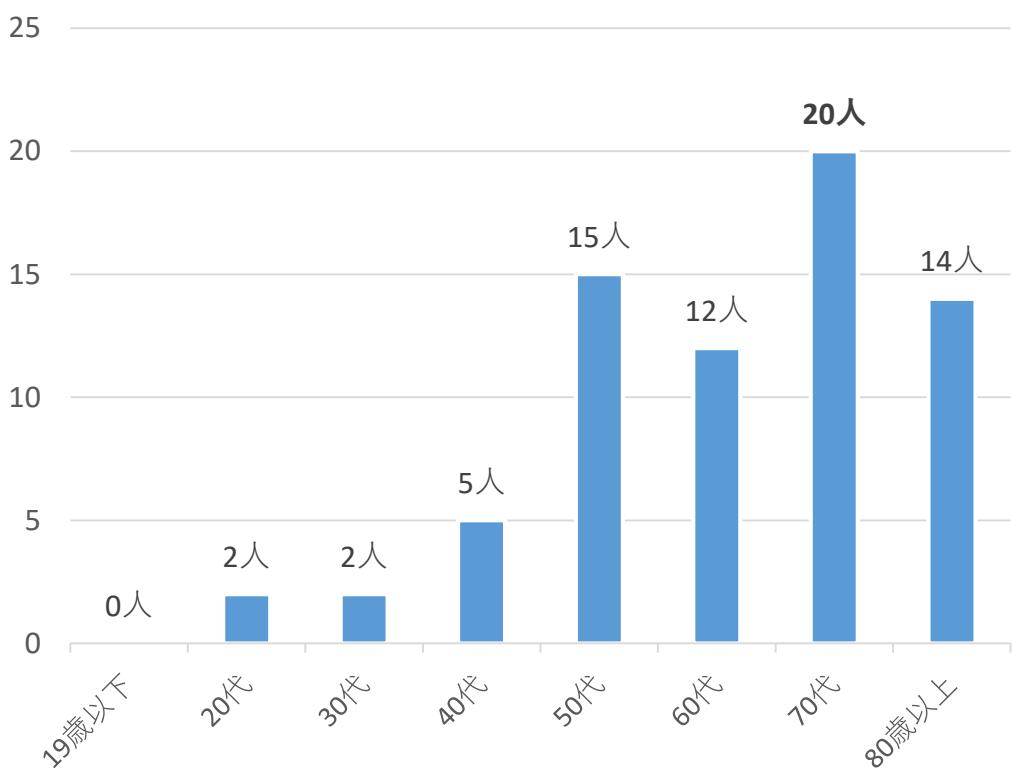
第1部も第2部も満足度が高い

【文京区在住・在勤・在学】



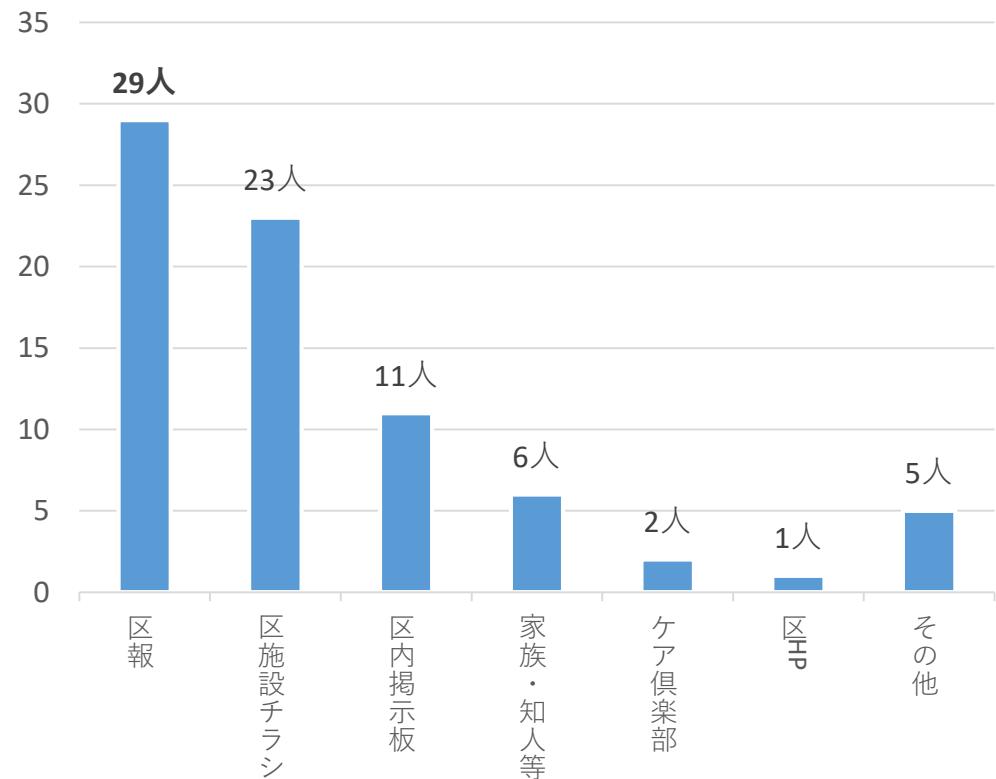
文京区在住が87%

【年代】



- 70代が約29%で最多
- 50代以下が約34%と比較的若い年代の参加者が多く見られた

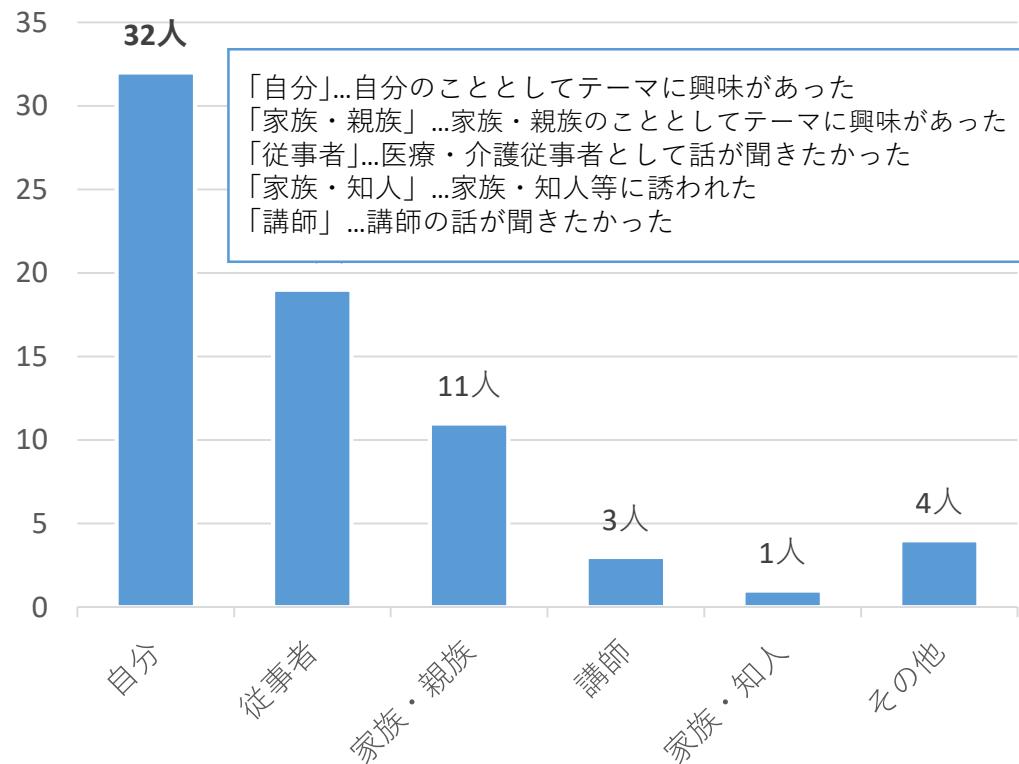
【講演会を知るきっかけ】



〈他の内訳〉

- ・石垣先生からの紹介・病院のチラシ
- ・社協からの案内・区のSNS

【申込理由(複数回答可)】



自分のこととして気になった方が約45%

〈他の内訳〉

- ・研究分野だから
- ・在宅医療そのものに関する興味（3名）

| 【自由意見】（まとめ） | 意見内容 |
|--------------|---|
| 学習効果・理解の深化 | 大変勉強になった／具体例が多く理解しやすかった／概念が一新された (緩和ケア、在宅リハの全人的視点)。 疾患により終末期の経過が異なることを知れた。 第1部で全体像がつかめ、第2部で具体的方法が理解できたという評価が多数。 |
| 内省・行動意欲の喚起 | 自分事として考えるようになった／家族に意思を伝えたい／傾聴を大事にしたい 何とか対応する道が少し見えた／もっと学びたい、再度参加して質問したい |
| 在宅医療・介護への気づき | 在宅医療は「看る人」が必要で、一人で担うのは厳しい場合が多いことと生活の場の視点、暮らしを支える在宅リハの重要性を再認識。 |
| 講義構成・伝え方への評価 | 第1部は幅広いACP解説がわかりやすい、第2部は現実的・具体的で参考になった。 症例提示が理解を助けた／用語説明が親切で助かった |
| 心理的影響・共感 | モヤモヤや心の痛みが和らいだ／「生きるとは死に向かって歩む」等のメッセージに共感／「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」という関わり方に感銘 |
| 運営面の感想 | 無料でこのクオリティはない／とても良い取り組み／また参加したい 冷房の影響で体調不良となり前半終了後に退出したという個別コメント。 |
| 個別職種からの所感 | 訪問看護の立場から、普段の簡単なリハ介入に自信がなかったが、第2部在宅リハの内容を参考にしたい。 |

【自由意見】(抜粋)

| | |
|---------------|--|
| 講演内容について | <ul style="list-style-type: none">・大変貴重なお話を伺えたと思います。こういう機会をまた提供してください。・大変学びの多い講義でした。無料でこのクオリティはないと思います。・具体例やカタカナ言葉の説明等があり、とても理解しやすかった。・在宅医療やりハビリの考え方、技術が変化していることがよく分かった。 <p>家族の介護についても考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・今までモヤモヤしていた事、心の痛み、緩和ケアの事などがわかったような気がします。・今まで知らなかつたこと、疾患によって死に至るまでの経過が異なることなど、知れて良かったです。・具体例もたくさん挙げてくださりわかりやすかったです。 |
| 今後取り上げてほしいテーマ | <ul style="list-style-type: none">・文京区で現在在宅医療を受けている人口比、件数について。 どのような在宅医療が多いのか。・症例（がん、認知症、パーキンソン）毎に、医療機関、在宅療養、在宅購入機器（例：胃ろう器など）でそれぞれいくらかかるかの実例と比較をしてほしい・幼児と高齢者の地域でのつながりの強化を取り上げていただきたい。世代間分断を感じる。・具体的な事例を踏まえた仕事と介護との両立について |
| 今後の運営について | <ul style="list-style-type: none">・年4回位講演会をやってほしい。・オンラインでも受講でき、質問、後日でも視聴可能な仕組みがあると便利だと思います。 |

【自由意見】（抜粋）続き

| | |
|---------|--|
| 第1部について | <ul style="list-style-type: none">・私の中で「緩和ケア」の概念が一新されました。とても重いテーマを分かりやすくお話いただけて良かったです。我がこととして考えていこうと思います。・参考になりました。自分の意志、意思をしっかり家族に伝えなければと思います。介護する立場からご本人との傾聴は大事だと思います。・症例を挙げていただきましたが、ADとACPの違いが良くわかりませんでした。 <p>ACP導入の為には、市民、患者家族への教育が大切だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none">・ACPのいくつかの事例が示されていてとても理解しやすかったです。・事例を踏まえて大変わかりやすかったです。ACPの大切さについてよく理解できた。・ACPについては、本人・家族に話すタイミングがとても難しく思った。 |
| 第2部について | <ul style="list-style-type: none">・在宅リハについても、様々な要素があることを学ばせていただきました。生活の場での視点が大切だということがわかりました。・身体面のリハビリだけでなく、できるだけ自宅で自分らしく過ごせるための全人的なリハビリの重要性を改めて感じました。・Life、いのち、くらし、生きがい、実現のためのリハビリテーションの必要性が大事であるとわかりました。・「医心方」「介護保険制度」「在宅医療の歩み」など、地域医療と介護の関係性についてとても勉強になりました。・在宅でのリハビリは、運動機能だけでなく、暮らしを支えるために重要な役割を果たしていることを再確認した。 |

講演会のYouTube URL

【第1部「在宅緩和ケアとACPの実際」】



【第2部「在宅医療とリハビリテーション」】

